

九州北部豪雨災害対策本部の設置

7月5日、福岡県と大分県にかけて観測史上最も多い雨量が観測され、九州北部の3水系（遠賀川、筑後川、山国川）では氾濫危険水位を超える洪水が発生しました。

翌6日、PC建協はこの災害に昼夜問わず敏速な対応ができるよう、本部と九州支部に「九州北部豪雨災害対策本部」を設置しました。

週明けの10日には福岡県朝倉県土整備事務所より災害協定に基づく橋梁調査の依頼があり、ただちに調査



▲ 橋梁を点検する調査班

班を派遣し、国道・県道12橋に対する点検を実施しました。一般車両の

通行に支障がないか確認し、14日に同事務所へ調査結果を報告しました。

7月31日には同事務所より2回目となる橋梁追加調査依頼（100橋）があり、8月上旬に点検を実施し、8月9日に結果を報告しました。引き続き、今後の追加調査等の要請に対応すべく体制を継続しています。

このたび被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆さまのご健康を心からお祈り申し上げます。



▲ 橋梁調査会議状況

各発注者との意見交換会始まる

7月下旬より全国10カ所において発注者（各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局）との意見交換会が行われます。

8月末までに沖縄総合事務局（7/27）、四国地方整備局（8/1）、中部地方整備局（8/24）、中国地方整備局（8/31）が終了しました。9月から10月にかけて残りの意見交換会を順次開催する予定です。

■ PC建協からの提案

① 担い手確保の推進

- ・ 年度工事量の安定的確保
- ・ 若手および女性の活用を促進する入札制度の提案

・ 完全週休2日のモデル工事促進
・ 適正な工期設定および工期を延伸する場合の配置技術者の拘束緩和

② 生産性向上の推進

- ・ プレキャスト技術採用の拡大
- ・ ICT技術を活用した維持管理の効率化

③ インフラ長寿命化への対応

- ・ PC橋の維持保全事業での技術提案・交渉方式の試行工事の発注

・ PC橋の維持保全事業における国交省による直轄代行業務を含めた地方自治体への支援

第7回PC建協業務報告会を開催

平成29年7月20日にホテルグランドアーク半蔵門で「平成29年度第7回PC建協業務報告会」を開催しました。

この報告会は「会員各社の公益の確保」を目的として、協会活動の成果を会員全体にフィードバックするために実施しているものです。

今年も、支部や部会（小委員会）の活動を紹介するポスター展示を行いました。報告会では五道仁（米国）交通省大臣官房技術審議官の祝辞に続き、PC建協から次の7件を発表しました。

- ① 新ビジョン2017
- ② 生産性向上の取組み
- ③ PC技術専門家派遣の取組み
- ④ 撤去橋梁を用いた既設PC橋の診断技術高度化に関する共同研究
- ⑤ シース周辺のコンクリート温度に関する調査結果報告
- ⑥ 施工計画書作成の手引き「場所打ち編」の改訂について
- ⑦ 建築におけるPC緊張管理手法の改善中間報告

その後、石原康弘国土交通省大臣官房技術調査課長から「i-Constructionの展開〜生産性革命『前進』の1年」と題した特別講演をいただきました。

参加者は、発注者をはじめ会員企業、賛助会員企業を含め、総勢180

人となりました。また、例年より女性の参加者が増え、女性技術者による業務報告もありました。



▲ 熱心にメモを取る参加者

第25回PC建築技術講習会を開催

平成29年6月23日に港区の建築会館大ホールで「第25回PC建築技術講習会」を開催しました。

この講習会はPC建築技術の普及・発展を目的にその活用成果などを紹介するものです。講師はPCaPC工法で施工した建築物を担当した意匠・構造設計者に務めていただきました。また新しい試みとして東京会場(主会場)の映像と音声We b配信により大阪会場(AP大阪梅田茶屋町)へ送り、東西で同時に開催しました。

当日は官公庁・大学・設計事務所・ゼネコンなど東京と大阪を合わせて389人(前年比47%増)が聴講しました。各講習の建築物、講師、演題は次の通りです。

① GLP 鳴尾浜プロジェクト

デロイトトーマツPRS(株) 武田啓志
「BIMによるPCaPC免震マルチテナント型物流施設の開発」

② 高知城歴史博物館

(株)日本設計 松尾和生、清水謙一
「城十船十風土 PCaPCを使い高知らしさを表現した博物館」

③ 南相馬市立総合病院脳卒中センター

(株)久米設計 奥野親正
「ドライジョイントとしたPCaPC細柱梁外郭架構を有する病院」

④ 愛知総合工科高等学校

(株)久米設計 横田順、中島隆裕
「『見える化』によるスケルトンフレームの学校」



▲ ライブ中継された大阪会場

PC技術専門家を派遣

PC建協では、多くの学生にPC構造に興味を持ってもらうことを目的にPC技術専門家を派遣しています。

【関東支部】

平成29年6月6日に日本大学で生産工学部土木工学科3年生の学生51人に「PC橋の施工」をテーマに講義と緊張の実演を行いました。講義ではPC技術の歴史、構造や架設工法、構造物の性能と緊張などについて写真や資料を使って説明しました。また実演ではPC鋼より線と緊張器具を使用しました。



▲ 日本大学での教材を使った実演

【北陸支部】

平成29年6月6日に長岡技術科学大学で環境社会基盤工学課程3年生の学生71人に「プレストレストコンクリート橋」と題した講義を行いました。講義ではPC橋の概要(橋の構成、PCの歴史・特徴、構造形式、架設工法)や新潟県のPC構造物などについて解説しました。

【中国支部】

平成29年6月27日と7月4日の2

日間、広島工業大学で工学部3・4年生の学生15人に「プレストレストコンクリート(PC)橋について」と題した講義を行いました。講義の初日は、PCの全体概要と橋の歴史について資料を用いて説明しました。2日目はPC構造の理解を促すため、PCの模型や実際のPC材料を用いて解説しました。



▲ PCの構造に関心を示す 広島工業大学の学生たち

そのほか平成29年4月以降に実施されたPC技術専門家の派遣講義は次の通りです。

開催日	支部名	学校名
4月17日	関東	芝浦工業大学
5月23日	関東	日本大学
5月30日	関東	日本大学
6月20日	北陸	福井工業大学
6月21日	九州	九州大学
6月23日	関東	足利工業大学
6月27日	北陸	金沢大学
6月28日	九州	九州大学
7月10日	九州	九州工業大学
7月10日	九州	琉球大学
7月11日	関東	東京都市大学
7月14日	関東	東京都市大学
7月20日	九州	宮崎大学

現場見学会を開催

PC建協支部が主催者とする現場見学会が各地で開催されました。

【四国支部】

平成29年5月11日に香川県東かがわ市の「高松自動車道宮池橋」など3橋の工事現場で香川高等専門学校教職員と学生の47人を対象にPC上部工工事の現場見学会を実施しました。本橋は橋長364mのポストテンション方式PC11径間連結中空床版桁橋（架設桁架設／オリエンタル白石）です。当日は事業概要と工事進捗を説明後、施工中のPC構造物や建設機材の見学を行いました。



▲ 宮池橋を現場見学する学生たち

その他

・5月29日 国道55号阿南道路中島高架橋 阿南工業高等専門学校約25人

【東北支部】

平成29年6月11日に岩手県宮古市の「国道45号長内川橋」で地域住民の下荒谷自治会の33人を対象に上部工の現場見学会を行いました。本橋は橋長194mの3径間連続ラーメン箱桁橋（PC片持架設／ピース三菱）です。当日はPC板を用いてPC構造物のねばり強さを説明するとともに、張出し施工などの様子を見学してもらいました。



▲ 長内川橋を現場見学した下荒谷自治会の方々

【中部支部】

平成29年7月5日に三重県菰野町の「湯の山大橋（仮称）」で名古屋工業大学の1年生49人を対象にPC上部工の現場見学会を行いました。本橋は橋長269m、橋面までの高さ64mの3径間連続ラーメン箱桁橋（PC片持架設／日本ピース・川田建設特定JV）です。当日は橋面上まで上り、インフラ整備の重要性や授業で学ぶこ

とがどう活かされているかなどの説明を行いました。



▲ 湯の山大橋の橋面上を見学する学生たち

第5回中部ライフガードTEC 2017「防災・減災・危機管理展」に出展

「ライフガードTEC」は、地震対策・ITシステム・労働安全衛生にかかわる製品・技術・サービスなどを紹介する総合防災展です。南海トラフの巨大地震に備え、地域住民の防災意識向上と関連産業のビジネスチャンス拡大を通じて、防災と減災および事業継続計画（BCP）への取り組みを推進することを目的にしています。主催は名古屋国際見本市委員会、南海トラフ地震対策中部圏戦略会議が共催しています。

今年度は平成29年5月18日と19日にポートメッセなごや（名古屋市内国際展示場）で開催され、124の企業と団

体が出展しました。総来場者数は約2万人と大盛況でした。PC建協は第1回から出展しており、今回はPC構造による人工地盤の模型を展示し、PC利用による津波対策例を来場者に紹介しました。

平成29年度 EE東北'17に出展



▲ 高耐久PC桁への取組をPRした東北支部

建設事業の新材料や新工法などの展示会「EE東北'17」が平成29年6月7日～8日の2日間、仙台市の夢メッセみやぎで開催されました。27回目を迎えた今年は過去最多の1万5700人（昨年比10%増）の来場があり大変な賑わいを見せていました。

今回はWebを活用した通信技術や震災復興を担う技術など5分野869技術の出展があり、PC建協東北支部が共催する「高校生『橋梁模型』作品発表会」に入賞した10校の作品展示コーナーも設けられました。同支部も

ブース出展しパネルなどで「高耐久PC桁への取組」をPRしました。

このほかマルチロータヘリコプター（ドローン）の操縦力を競う「ドローン（UAV）競技会」が開催され、計15チームが空撮技術と計測技術を競う様子を延べ2000人が観戦しました。

第26回プレストレストコンクリート発展に関するシンポジウム（神戸）開催のお知らせ

（公社）プレストレストコンクリート工学会は「第26回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を平成29年10月26日と27日の2日間にわたって神戸市東灘区の神戸ファッションマートで開催します。シンポジウムでは特別講演会、一般学術講演会、企業などの技術展示などが行われ、わが国のPCの最新情報を得る絶好の機会となります。

全国から開通情報

【東北支部】

小名浜マリノブリッジ完成

※20ページ参照

平成29年4月23日に小名浜港の臨港道路である小名浜マリノブリッジ（橋長927m）の完成披露式が開催さ

れました。当日は関係者や地域住民が200人参加し、内堀雅雄福島県知事など近隣自治体の首長らによるテープカット、くす玉開披、そして「三世代夫婦による渡り初め」が行われました。

【北陸支部】

国道158号中部縦貫自動車道永平寺大野道路（永平寺IC～上志比IC）開通



▲ 中部縦貫自動車道 永平寺大野道路 轟4号橋

平成29年7月8日に国道158号中部縦貫自動車道永平寺大野道路の永平寺IC～上志比IC（延長約5.3km）が暫定2車線で開通しました。これにより永平寺大野道路（総延長26.4km）は全線開通となり、両端の福井北JCT・IC～大野IC間は約20分で結ばれました。浅見トンネル付近で催された開通式ではテープカット、くす玉開披、通り初めが行われました。

【関西支部】

新名神高速道路（城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）開通

※24ページ参照

平成29年4月30日に新名神高速道路城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC（延長3.5km）が開通しました。これにより第二京阪道路と京奈和自動車道が本区間を介して直結しました。城陽JCT・IC付近で催された開通式では山田啓二京都府知事など近隣自治体の首長らによるテープカットが行われ今回の開通を祝いました。

【九州支部】

熊本西環状道路（花園IC～下硯川IC）開通

平成29年3月26日に熊本西環状道路の花園IC～下硯川IC間（4.1km）が開通しました。この道路は熊本市が管理する初の地域高規格道路で、今回の開通で渋滞緩和と災害時の道路ネットワークが確保されました。下硯川IC付近での開通式には近隣自治体の首長など約240人が参加しました。

その他

・熊本県 八代都市計画道路・南部幹線 南川大橋（橋長194m）

編集幹事会

久我 誠志（幹事長）、小谷 仁（副幹事長）、荒畑 智志（副幹事長）、小出 武、俵 綾子、南 浩郎、三本 竜彦、木下 拓三、菅野 隆、太田 誠、清水 郁子、上田 孝明、寒川 勝彦、岩崎 麻美、小田切 隆幸

編集委員会

上野 進一郎（編集委員長）、櫻福 淨（編集副委員長）、鈴木 裕二、吉山 誠之、竹本 伸一、的場 純一、深谷 浩史、松嶋 憲昭、高松 正伸、石井 一生（特別顧問）

編集後記

NHK大河ドラマの直虎フィーバーに沸く、浜松に行ってきました。浜松は、徳川家康が天下人への礎を築いたところであり、豊臣秀吉が天下人への最初の一步を踏み出したところでもあります。また近代以降では、YAMAHA、KAWAI、HONDA、SUZUKIなど楽器、バイク、自動車の世界的大企業を生み出すなど、まさに出世の街、浜松。この出世の運気にあやかり、読者の皆様、当建協が大きく発展していければと思います。

また「PCのニューフェイスたち」では、平成28年度に誕生したPC構造物の中から14作品を厳選し、施工時のエピソードなどとともに紹介しています。PC構造物の美しさや力強さを感じていただけたら幸いです。

（木下）